第 2012-06 号

恵みと真理のニュース

2012 年 3 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　家庭問題を解決してくださりまいどありがとうございます。

私は信仰とは距離が遠い生活をしながら育ちました。そして信仰のない人と　1980年に結婚しました。初子を姙娠してから体がしきりに腫れました。だんだん履き物をはくことができない位まで足が腫れました。担当のお医者様は姙娠中毒症だと言いながら、亢進すると胎児は勿論で産婦も危ないと言いました。ところで不思議なことに恐ろしい心が生じなかったです。その頃、私に福音を伝える方が多くいました。心を開いて福音を受け入れなかったが、私の心の中に神様が生きて居られて私を助けて下さるという考えを持つようになりました。時間が経ちながら姙娠中毒症が消えて4.2Kgの健康な息子を安産しました。

私はご主人と一緒に不動産仲介業をしています。私たちの事務室に恵みと真理教会の長老様と按手執事様がたびたび尋ねて来ました。その人たちはいらっしゃるたびに私どもに福音を伝えました。私は別に関心がなかったが夫の心が動きました。ご主人はその方が勧め次第に教会へ一緒に行って見ようと言いました。1981年のある日、ご主人と一緒に恵みと真理教会へ出席しました。どれだけ多い人々が集まって喜んで礼拝を捧げているのか、礼拝光景を見てあまりにも驚きました。その後、教会へ通い始めたし熱心に信仰生活をしました。聖書の言葉が分からなければならないという気がして聖書を読み始めました。教会へ通って聖書を熱心に読んでからイエス様が誰か分かるようになったし、私の罪のために十字架で死んだキリストを思いながら悔い改めました。徐徐に信仰生活が私の生活の中心に位置づくようになりました。

息子は元気によく育ちました。しかし、私たち夫婦の背が低いからか息子の背が特に小さかったです。高等学校を入学した時の息子は自分のクラスは勿論、また全校生の中からも背が一番小さかったです。その理由のためか学校でよく友達に品物を奪われて来たり、殴られて来たりしました。はなはだしくはめがねまで割れて来る日もありました。息子のそんな姿を見ると私の心が非常に痛かったです。それで区域の聖徒たちと一緒にその問題の解決のために神様へ切に祈り始めました。

うちの息子の背がもっと延びて高等学校生活が正常にできることを祈りました。ところで驚きべきことが起こりました。神様が私どもの祈りに答えてくださいました。祈った後、息子の背は20cmももっと延びました。『恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。』（イザヤ４１：１０）の言葉を信じて神様の助けを求めながら祈りました。神様の答えのお陰でその後から息子は背が低いためいじめられることは無く、学校生活によく適応しながら成績も上がりました。

うちの主人は戸外では他の人々に親切でしたが家では全然違いました。ご主人のそんな姿が私には常に不満だったし夫に対するさびしさと憎さが私の心に徐徐に積もりました。どの日からこんな問題も神様に祈ることで解決受けなくちゃいけないと言う考えが浮かび神様へ詳細に訴えながら祈り始めました。　そうする中、説教時間に当会長チョ牧師先生は先にご主人を認めて高めて上げなさいというお話を聞くと私が変わると夫が変わるという考えをするようになりました。その後から主人が私にさびしくしたものなどを思うよりはありがたがることを捜そうと思うようになったし、夫に感謝すると言って誉めて認めて上げました。主人も私を相手にする態度が変わりました。主人は日増しに家族を暖かく迎えてくれたし愛が豊かな家長の姿に変わりました。主人は教会に通い始めた後信仰生活を熱心にしたし今は長老職分を受けて教会に献身しています。
私たちの家族を救ってくださって不可能なことを可能にしてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。いつも嬉しい心で信仰生活をして主様の驚くべきな愛を一生懸命に伝えながら暮します。

［信仰コラム］　神霊な人、神霊な生活

『わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました』（コリント前１２）

信仰生活をなりながら以前にはよく使わなかった用語を接するようになります。その中に一つが　“神霊だ.”という用語です。本文に出る‘神霊’という用語は信仰の対象になる超自然的な存在を称えるとか神通で霊妙なことを意味するのではないです。私たちは神霊な人ではなければならないし神霊な生活をしなければなりません。だから神霊だということが何を意味するのか正確な知識と理解が必要です。

先に　‘肉に属した人’に対して考えて見ます。これはイエス.キリストを信じない人を示します。　その霊が過ちと罪で死んだ状態だから神や真理を認識することができなくて気づきません。
神や真理を人の五官や理性で分かろうと労力するのは無駄です。魂だけが分別できます。キリストを信じない人は魂があってもその魂は正常な機能ができない状態です。人間の知識と知恵ではすべての存在の原因と理由と目的，罪と罪許し，人類の未来に対して分かることが全然不可能です。人間の経験と知識で研究して観察して思索したことでは聖霊の感動で記録された聖書お話が愚鈍に見えます。

それでも神様を知って真理が分かる道が全然ないのではないです。神様が選んだ者たちに聖霊様を送って見るようにして悟るようにしてくださいます。

”あなたはメシア、生ける神の子です”とペテロの信仰告白を聞いたイエス様は”このことを現したのは、わたしの天の父なのだ。”と語りました。
神様が分かるようにしてくれなければわからない知識だからです。パウロが使徒になる以前には基督教会を迫害した者だったし、もっと驚くべきなことは彼が聖書学者だったという事実です。それなのにイエス様がメシアであることを分からなかったのです。イエスが主でキリストで神なのを彼が分かるようになったことは彼の学問や人生経験や知恵で分かったのではありません。聖霊の啓示によって神様がイエス.キリスト中で働くことと恵みを初めて彼が分かりました。

次に‘神霊な人’に対して調べます。これは‘肉に属した者’に相反なる概念で聖霊によって新たに変った者を示す称です。二種類の神霊な人がいます。‘キリスト中で幼い子供’のような者がいます。

彼らを　‘肉身に属した者’と言いました．まだ幼弱な信者を示します。説教者が俗っぽい話と身辺雑記に関する話をすれば興味を持ってよく聞くが聖書を深く言えば興味が無くなってしまいます。異端教理や似非に関心を見せて易しく誘惑を受けて付いて行きます。新たに変る前の本性と気質と性向がまだ処理されなかった状態だから教会の人たちとよく争って、易しく心に傷ついて、試練に落ち込む人です。

一方、霊的に成熟になった‘神霊な人’は奥深い真理を聞くのが好きです。非聖書的な教訓と似非伝導者をよく見分け出します。聖霊様に深く頼って、聖霊様の引導に従います。‘神霊だ’と言うのは　‘聖霊によって支配される’，他に言えば　‘聖霊充満’の状態です。

神様の創造と拘束と攝理をいつも思いながら生きて行くので凡事に感謝して胆大で積極的に行って神様に任せて生きて行きます。聖霊様が感動感化してくださるので熱心に福音を伝えて主様の仕事に献身奉事します。善良で正しくて真実に暮すため力尽します。皆さんはいつもこのような成熟した信者になって神霊な人として神霊な生活ができるように願います。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

天国宴会に招かれた人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人の生涯にあって救いを得るよりもっと重大事はないです。聖書が教える救い内容の核心は天国です。だから救いを得た者とは天国で住むようになったことを意味します。
イエスが述べた福音は天国福音です。**『イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言われました。イエスが教えた八つの福の中で一番目が『「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである』です。そしてその八番目の福は『義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。』**でした。
『行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。』（ヨハネ１４：３）この言葉はイエスが十字架の死が迫って弟子たちにくださった一番大きい慰めの言葉でした。
神様が私たちにくださる最終的な福は天国の生活を願っていらっしゃいます。それで、天国はどんな所で、どんな人が入れるのかに関して分かるより貴重な知識はないと思います。
本日の本文にある例えもその一つです。

第一、イエス様は私たちが天国の民になるのをある王の婚宴の催しに招かれる例えで語りました。

マダイ22章は**『天の国は、ある王が王子のために婚宴を催したのに似ている』**とおっしゃいました。普通人の催す宴会ではなく王が催した宴会だからどれほど盛大なのかは十分予想できます。なお王が自分の息子のために催した婚姻宴だからもっと言うまでもないです。
王の婚宴が催した場所は非常に壮麗で美しく装いされたはずです。ヨハネ黙示録には天国がどれほど壮麗で美しいかを描いておきました。
聖なる都エルサレムその輝きは、最高の宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった。
また、十二の門は十二の真珠であって、都の城壁は碧玉で築かれ、都は透き通ったガラスのような純金であった。
都の城壁の土台石は、あらゆる宝石で飾られていた。
都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。大通りの中央に流れる水晶のように輝く命の水があって、左右にある命の木には十二回実を結び、その木の葉は諸国の民を病を治すためあります。
天国の美しさは言葉で表現できません。更に王が催した婚宴席には豊かな喜びがあります。天国には喜びを邪魔する要素は全然ありません。
黙示録21章と22章を見れば天国にはもはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。呪いもない夜もないと記しています。
また王が催した婚宴では王と交わる栄光を楽しめます。
黙示録２１章３節には**『わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み』**としました。

ルカ福音書１４章には主人が催した、＜大宴会＞と言って、＜すべてが準備した宴会＞と言いました。この宴会は神様が挙げて用意したのです。人々がすることは全然ありません。出来ることもありません。キリスト.イエスによって予備されたのです。イエス様の誕生と生涯、死亡と復活によって完全に用意されたのです。

第二、天国婚宴に招かれたが拒絶する人々が誰なのかをイエス様は語っています。

天国の宴会に招ねかれても応じない人々の態度は非常に多様です。
徹底的な無関心と反発心を持って一言の下に拒む人がいました。
仕事で、または人のためという様々な言い訳をして拒絶している人がいます。
言い訳をして拒絶する人々は天の国よりもこの世の中にもっと関心を持っています。
世の中仕事に心を奪われて天国への招待を拒否してしまう愚かな人よりもっと愚かな人はいません。
王の招きを伝える人を迫害する者がいます。神様は長く忍びますが永遠に耐えません。

迫害する者たちは神様に怒りを起して、最後の審判台の前で一番大きい審判を受けるようになります。
招請は何回にかけて続きました。
反復される神の召しに真剣さと忍耐力が表示されています。
今も聖徒たちを通じて天国宴会に参詣しなさいという招請が続いています。

第三、招請を受け入れて予備した宴会に参詣する人々が誰なのかをイエス様はおっしゃいました。

『家来たちは通りに出て行き、見かけた人は善人も悪人も皆集めて来たので、婚宴は客でいっぱいになった。』（マダイ２２：１０）とおっしゃいました。
招かれる対象は悪い者と善な者の差別はありません。人間の基準で悪い者と善な者と言っても神様の目で見たらすべてが罪人です。
ルカ福音１４章を見れば貧しい人、体の不自由な人を招きなさいと言って、通りや小道に出て行き、無理にでも人々を連れて来てこの家をいっぱいにしてくれとしました。
世の中には二種類の貧しい人がいます。
物質がなくて貧しい人と心霊的に貧しい人がいます。＜不自由な人を＞招いて来いと言いました。痛いところや障害がなくて元気で活動に自信満満とした人も体が病んで障害が生じれば、心が貧しくなります。苦痛と不便がない天国に対する話に心がひかれるようになります。
＜通りや小道にいる人＞と言うのは孤独で疎外された人々を言います。このように神は天の宴に誰も招待して連れて来ると言われます。

第四、神様が予備なさった大きい宴会に人々を導くように命令を受けた人たちに任務遂行をどうすれば良いだろうかをイエス様が具体的におっしゃいました。

誰でも天国宴会へ導きなさいと言いました。
＜無理にでも＞連れて来いと命じました。
＜この家をいっぱいにしてくれ。＞としました。教会は新しい信者でずっと満たさなければなりません。

空席があれば自分の責任で思わなければなりません。
我が周りにはまだ数多い人々が神様が用意した大宴会に対して無知な状態でいます。このような人々を天国宴会へ導かなければなりません。
福音伝導とは人々を神様が催した天国宴会へ導く事です。限りなく楽しい、そして豊かな大宴会に参詣するように導く事です。

第五、天国宴会に参詣するためには必ず礼服を着なければならないという非常に重要な事実をイエス様がおっしゃいました。

ご自分で準備した礼服ではなく招いた王がくださる礼服を着ます。神様が人に天国宴会に参加する時に着る礼服を予備したのは〈キリストの義〉です。イザヤ６１章１０節には**『わたしは主によって喜び楽しみ／わたしの魂はわたしの神にあって喜び躍る。主は救いの衣をわたしに着せ／恵みの晴れ着をまとわせてくださる。花婿のように輝きの冠をかぶらせ／花嫁のように宝石で飾ってくださる。』**と言いました。
カラデア３章２７節には**『洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。』**と言いました。

招請に応じたが礼服を着ない人と言うのは誰ですか。キリスト教の本質を捨てて皮相的な面だけを扱う人々です。

キリスト教を多い宗教中の一つに属すると思う人がいます。
キリスト教を倫理的、道徳的宗教以上に思わない人がいます。
教養、学問、趣味、社交目的に教会へ出る人がいます。私的な利益を取るための目的に通う人がいます。
王は側近の者たちに言った。**『この男の手足を縛って、外の暗闇にほうり出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。』**としました。これは地獄の刑罰を意味するのです。

イエス様は天国宴会の話の最後に**『招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。』**の言葉で終りました。すべての人が救いを受けるように招待されています。天国への招請を受けています。しかし、招請に応じない人が多いです。
招きを受けた人の中に裁きを受け捨てられる者たちを詳らかに分類すれば二つに分けます。

最初は招請を拒否した人がいます。無関心とか、理由問わず断るとか、言い訳をしながら断るとか、迫害をする人がいます。
第二は招請に応じたようだが実際にそうではない人がいます。教人に登録されているが聖徒でいない人がいます。聖書どおりの信仰を持っていない人です。宗教多元主義、混合主義、包容主義の信仰を持った人たちです。このような人は救いを得られないし天国に入ることもできません。

招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないです。招かれるのと選ばれることは大きな差があります。
福音を聞いた人たちは皆、招かれた人です。
福音を聞いて真実にイエス.キリストを信じる人は選ばれた人です。真実に信じる人はイエスキリストをいつも相変わらず愛します。
皆さんは選ばれた人になって、天国の美しさと豊かさと喜びを享受して主様と共に天国で永遠に住むことが出来るように祝福し祈ります。